

5/12・13

体験して学ぶ、危険回避の知恵。
親と子の交通安全教室



直方自動車学校で「第38回 親と子の交通安全教室」が開催されました。直方市・小竹町・鞍手町の小学校11校の新1年生と保護者が参加し、死角のある横断歩道の渡り方や、人形を用いた急ブレーキ実演で飛び出しの危険を学びました。

子どもたちは真剣な表情で訓練に励み、交通安全協会の飯野会長の「学んだことを明日からの登下校に生かしてほしい」との声かけに、元気いっぱいの大きな返事が響きました。

4/23

スポーツチャンバラ全国大会で快挙!
筑前塾が戦績を報告



スポーツチャンバラ「筑前塾」(感田)の選手たちが全国大会での快挙を市長に報告しました。

4月5日に兵庫県で開催された全国選手権大会にて、有吉航太郎さん(植木小5年)が楯小太刀で優勝、小太刀で3位に輝いたほか、有吉翔太郎さん(植木中2年)が楯長剣で3位、川越悠斗さん(筑豊高3年)が長剣両手で3位と、見事な成績を収めました。

当日は入賞者3人に加え、9月の世界選手権出場を目指す精鋭6人も来庁。選手たちは全国制覇の喜びと、次なる世界舞台への決意を力強く語りました。

お花が好きなあなた必見!

のおがた花便り

雨の季節に輝く花「あじさい」を見に行こう

①もととりあじさい園 約4000株が織りなす、幻想の森

もととりあじさい園で、心洗われる花旅を。鮮やかに彩られた園内を歩き、自然の優しさに癒される。特別な時間を過ごしませんか。

とき: 6月1日(月)~21日(日)

ところ: 上頓野4200番地13

【問い合わせ】金剛山もととり保全協議会 ☎080-5602-5450



もととりあじさい園

②福智山ろく花公園 涼やかな水面に浮かぶ彩り

福智山ろく花公園にて花手水(はなちょうず)を実施します。

「もととりあじさい園」で咲き誇ったあじさいが「福智山ろく花公園」の水場を彩ります。

県内最大級の花手水は6月27日(土)、28日(日)が見ごろです。

とき: 午前9時から午後5時まで開園

ところ: 永満寺1498

入園料: 福智山ろく花公園の公式ホームページをご覧ください

【問い合わせ】福智山ろく花公園 ☎23-4187



▲詳細は福智山ろく花公園ホームページ



▲コスモスの種配布の詳細は市ホームページ

直方市をコスモスでいっぱい!協力者を募集します

市では、花の景観づくりを促進するとともに、地域の景観向上、環境保全、地域活性化を促進し、憩いの場を創出することを目的に、条件に該当する人へコスモスの種を配布しています。

条件や詳細については市ホームページをご覧ください

【問い合わせ】商工観光課 商業観光係 ☎25-2156

まちの話題



3/28

活動の様子はSNSで!

木村徹二さんの直方市来訪レポート



直方ふるさと応援大使の歌手・木村徹二さんが、「のおがたチューリップフェア2026」や市内施設、新しくオープンした「もち吉 工場直売所」を訪れました。

直方谷尾美術館では、初代直方ふるさと応援大使、切り絵クリエイターKENさんの展覧会「もぐもぐ四季ねこ展」を鑑賞。初対面となったKENさんとも終始和やかに交流しました。フェア会場では人力車に乗って華やかに登場し、ステージイベント「のど自慢リターンズ」に出演。出場者一人ひとりを全力で応援し、軽快なトークで会場を笑顔に包みました。最後には「アイアンボイス」と称される圧巻の歌声を披露し、色鮮やかなチューリップと桜が彩るステージを盛り上げました。

その後は「もち吉 工場直売所」を訪れ、地元の味と魅力に触れた木村さん。大使として直方を再発見した一日となりました。市は今後も、応援大使の活動の様子を公式SNSで随時発信していく予定です。

4/21

未来への展望を、掲げる。

南極地域観測隊 隊員 太田計介さん帰国



直方市出身の登山家、第66次南極地域観測隊の越冬隊員として活躍した太田計介さんが、任期を終えて帰国し、成果を報告しました。「野外支援隊員」に選出された太田さんは、現地で研究者の活動を支えるルート探索や、ドリルを用いた氷厚調査等の重要な任務に従事しました。

太陽が昇らない「極夜」に見たオーロラや満天の星空の美しさを語る一方、顔に当たると痛ほどの激しい地吹雪等、極地ならではのリアルな生活実態も明かしました。「南極にはウイルスが存在しない。私は滞在中は一度も体調を崩さず健康に過ごせました」という体験も話しました。普段活動している日本の山とは異なり、生き物も植物もない「無機質の静寂」に包まれた世界に深い感銘を受けたといいます。「やり残したことがたくさんある。一度目の経験を活かし、機会があればぜひまた南極へ行きたい」と再訪への意欲を力強く語った太田さん。大塚市長からは「南極での貴重な経験を、ぜひ直方の子どもたちにも伝えてほしい」と、次世代への橋渡しを期待する言葉が贈られました。